

ほぼ月刊 桑名歴史こぼなし

Vol.7 2019年9月1日発行

編集・発行：©社会福祉法人 桑名市社会福祉協議会 文化スポーツ振興課 TEL0594-22-8311

<銀メダルを胸に長島に凱旋>

第6号に続いて長島町福吉出身、星見ヶ丘在住のアトランタオリンピック野球銀メダリスト**森昌彦**（1965～、以下敬称略）の歩みを紹介します。平成8（1996）年8月29日、長島町役場の**伊藤仙七**（1923～2008）町長を表敬訪問し、10月10日の長島町民体育大会では同級生で名古屋グランパスエイトのゴールキーパー**伊藤裕二**（1965～）とともに凱旋パレードを行い、同日に長島町スポーツ功労賞を授与されました。アトランタ五輪について森は「地域の皆さんの熱い応援が野球人としての私をつくり出してくれました。勇気とパワーをいつも戴いていました。オリンピックは野球人生最高の経験をさせて頂き、銀メダル獲得に貢献できました」と語っています。



平成8年10月10日
銀メダルを胸にした森昌彦
(長島町福吉・まつや寿司)

平成9（1997）年、一度引退してコーチとなり、中日ドラゴンズで活躍する**岩瀬仁紀**（1974～）など後進の指導にあたりました。岩瀬の癖のある投球を直すべき短所ではなく、武器となる長所と捉え、得意のカットボールも伝授しました。後に岩瀬は森との出会いを「大きな財産」と語っています。平成11（1999）年にNTT東海硬式野球部が廃部し、NTT西日本名古屋野球クラブとしてクラブチームに移行したことを機に、投手兼コーチとして現役復帰しましたが、平成14（2002）年の**第73回都市対抗野球大会**の予選を最後に同クラブも解散しました。結果として森は実業団野球の最高峰である都市対抗野球大会に10年連続出場という偉業を成し遂げました。

<社会人野球から高校野球の指導者へ>

平成15（2003）年、NTT西日本名古屋野球クラブの有志らで結成した**愛知ベースボールクラブ**の監督に就任し、平成19（2007）年には**第32回全日本クラブ野球選手権大会**への出場を果たします。同年、**豊川高等学校**（愛知県豊川市）から硬式野球部監督に招かれ、12月31日をもって西日本電信電話を退職し、平成20（2008）年1月1日付で同校に着任しました。監督就任にあたっては「生徒たちに甲子園の夢をかなえさせたい」と抱負を語り、自ら単身赴任して野球部員とともに寮生活を開始しました。豊川高等学校の硬式野球部は昭和21（1946）年創部と長い歴史があり、平成15（2003）年と平成16（2004）年の愛知大会ではいずれも準優勝しているものの、甲子園出場は果たせていませんでした。着任直前の平成19（2007）年12月には高校時代の同級生**今井陽一**（1965～）がコーチに就任しており、二人三脚で生徒の育成に取り組みました。

平成25（2013）年7月30日、愛知大会初戦で**岡崎工業高等学校**（愛知県岡崎市）に敗退したことの責任を取って今井に監督を譲り、自身はコーチとして引き続き指導にあたりました。今井監督は就任にあたって「森が間違っていなかったことを証明するためにも、甲子園に行つて森を男にしよう」と話し、森の指導方法を踏襲しました。平成26（2014）年3月21日、ついに夢が実現

し、**第 86 回選抜高等学校野球大会**の開会式には豊川高等学校の球児たちの姿がありました。同校は 4 月 1 日の準決勝で**履正社高等学校**（大阪府豊中市）と延長 10 回の激戦の末、7 対 12 で敗れましたが、初出場にしていきなりのベスト 4 進出という好成績をのこしました。



平成 8 年 10 月 10 日
長島町民体育大会での凱旋パレード
(長島町押付・長島運動公園)

<中京学院大中京の甲子園出場>

平成 27 (2015) 年 1 月、**中京高等学校**（岐阜県瑞浪市、平成 29 (2017) 年 4 月に**中京学院大学附属中京高等学校**となりました）に硬式野球部コーチとして招かれ、再び生徒たちと寮生活を送って指導にあたりました。同時期に亜細亜大学と NTT 西日本名古屋野球クラブの先輩にあたる**橋本哲也**（1964～）が監督に就任し、早速にも平成 28 (2016) 年 8 月の**第 98 回全国高等学校野球選手権大会**に出場を果たし、二回戦で**常総学院高等学校**（茨城県土浦市）に敗れました。現在は入試広報部入試課の業務をこなしつつ、校技・強化運動部課長と硬式野球部副部長を務めて球児たちの指導を行っています。令和元（2019）年 7 月 29 日には岐阜大会二連覇の**大垣日本大学高等学校**（岐阜県大垣市）を相手に再逆転による劇的な勝利を飾り、**第 101 回全国高等学校野球選手権大会**への切符を手に入れました。

<甲子園に三度導く名指導者>

阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）ではコーチとして試合前の練習を指導し、**北照高等学校**（北海道小樽市）、**東海大学付属相模高等学校**（神奈川県相模原市南区）、**作新学院高等学校**（栃木県宇都宮市）にはいずれも逆転で勝利しました。8 月 20 日の準決勝では**星稜高等学校**（石川県金沢市）に敗れたものの、見事にベスト 4 入りを果たしました。森の采配は巧みな投手継投に特徴があり、試合状況に応じて適宜投手を変更し、ポジションを移すことで再登板を可能としました。この作戦には選手らの技量の高さはもちろんのこと、的確な指示を出す指導陣の存在なくしては発揮できません。まさにチーム力での勝利と言えるものでした。高校野球については「**社会人も指導してきましたが、高校生はいろんな色に変わるので面白いです。そして何色にも変化するからこそ将来に対して指導者には大きな責任があります。大事なのは技術を教えることよりも日常の生活ですね。野球をやってきて、学ぶものがたくさんある**」と語っており、日頃の生活態度や心がけに重きを置き、勝敗はその結果としてついてくるという方針が感じられます。現役時代の選手としての活躍はもちろんですが、指導した球児たちをこれまでに三度甲子園に導いており、名指導者と呼ぶべき実績です。

なお、令和 2 (2020) 年 1 月 26 日に**桑名市大山田コミュニティプラザ**（桑名市大山田）において「**桑名出身オリンピック日本代表選手講演会 ～ふたりのオリンピックが語る桑名と五輪 森昌彦選手・田中穂徳選手～**」と題する講演会の開催が予定されており、講師として登壇しますので、ご期待ください。

